

# 田和山の森から

第 254 号  
令和 7 年 12 月 5 日  
里山を育てる会

## 晩秋のよそおいの田和山

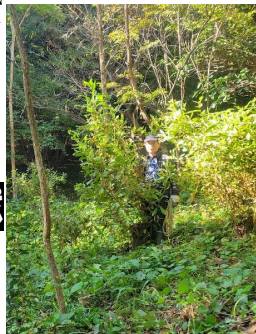


紅葉の名残と落葉の  
始まりで、林外と林内  
の景色は変わりました。

### 11 月の作業から

#### モウソウチク林の本数調整

モウソウチク林内の本数調整の伐採を、月を  
またいで行いました。伐  
採した 4 ～ 5 年生のタケ  
は、キンランの株数調査の  
ための竹串として活用しま  
す。



#### シイタケ原木の伐 採

シイタケ栽培を持続的に

行うために、今年もクヌギの伐採を東側のクヌ  
ギ植栽地で行いました。伐採したクヌギは来春  
に玉切りを行い、植菌の予定です。去年伐採を  
したクヌギは、萌芽枝が写真左下のように 1  
年で 2 メートル以上に伸びており、このまま  
順調に育てば、5 年以内には利用可能な太さにな  
りそうです。

#### キンランの増加を目指し林床整理

今年もキンランの発生環境を整えるため、西  
側斜面を中心に林床整理を行います。ブナ科以  
外の低木やササの刈り払いと、落ち葉掻きを行  
います。



### 12 月の予定

主たる作業

- ・林床整理
- ・シイタケ原木の伐採と萌芽枝の整理

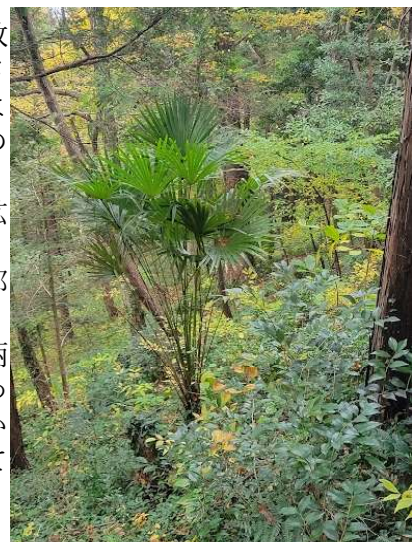
### 田和山の樹木 第 66 回 シュロ

シュロは、国内に自生する唯一のヤシ科の樹木です。田和山にも数  
本のシュロがあり、高さ 5 メートルに達するものや、写真の様に 1 メ  
ートルにもならないものもあります。高い方は、畑の跡に人の手によ  
って植栽され、尾根付近に自生するのは鳥によって種が運ばれたもの  
と推定されます。

ヤシ科の中では、比較的寒さに強く東北地方南部までに分布を拡  
げています。

幹は分岐せず真っすぐに伸びる円柱で、枝はありません。幹の頂部  
に生じる葉は扇状で、何枚もの細長い小葉が集まってできています。  
葉柄は丈夫で持ちやすく、棕櫚箒やハエ叩きとしても使えます。葉柄  
の基部にあるシュロ皮は水に強く腐りにくくまた水捌けも良いため  
に、シュロ縄(園芸用には欠かせない)、たわしやマット等として用い  
られています。このような実用性のため、かつては大切に育てられて  
いました。

変わったところで材は、撞木として使われています。



**今後の活動予定** 12 月 5 日(金)、12 月 12 日(金)、12 月 20 日(土)が年内最終です。 令和 8  
年 1 月 9 日(金)作業後に新年会、1 月 17 日(土)、1 月 23 日(金)、1 月 30 日(金)。時間は 13:30  
から、ただし土曜日はは 9:00 からとなります。